

## 【時局（現象）に対する福田恆存の解釈】

### ——西欧近代精神への日本人の適応異常——

#### 近代西欧精神とは何か……「神に型どれる人間の概念の探求」

- \* それが、西欧(欧米)諸事情を解くキーフレーズ。
- \* その客体化が、「民主主義・自由・平等・友愛」「個人主義」「ボランティア(自己犠牲)」等々。
- \* そして日本は、それら輸入概念を自己所有化できない為に適応異常(履き違へ・擦り替へ)を起こしてゐる……自己欺瞞。即ち、慈善と言ふ名の偽善(満たされぬ自己愛の他者愛的擦り替へ)等々。

時局（現象）	福田恆存の解釈（本質論）	参考評論（『日本への遺言』は評論珠玉集）
ボランティア・NGO・ヒューマニズム・生命第一主義・一国平和主義	言葉の自己所有化（so called）の不在が招く履き違へ。 「弱者の歪曲された優越意思」即ち自己欺瞞、満たされぬ自己愛の似非ヒューマニズム的擦り替へ。（日本の私小説家的特質）……以下へ続く。	『醒めて踊れ』（当HP演劇論主文参照）・『一匹と九十九匹と』『生命尊重（日本への遺言より）』『アポカリプス論（ロレンス）』前書き・『権力への意志（ニーチェ）』
《ボランティアに見られる自己陶醉臭》＝個人主義の病弊 ~~~~~ ボランティアと言ふ名の自己全体化（自己主人公化・自己陶醉）……「ほんのいつとき自分の出場で大見得を切る哀れな役者・動きまはる影」（『マクベス』から）	当HP「近代」：西欧と日本の比較構図：参照 「（日本小説の）作者たちから生活苦をとりのぞき、栄誉ある社会的地位を与へてやつたならば、いつたいそのうちのいくたりが文学に求道の忠実を誓つたであらうか。近代日本にあつては、文学（B）すらも文明開化の出世主義（A）のネガティブな吐け口になつてはゐなかつたか」	『現代人の救ひといふこと』（当HP：『「近代」日本人の精神性』構図参照） 個人主義の病弊……『人間・この劇的なもの』（当HP：同題名発表文参照）

	以下へ続く問題。	
<p>映画『パッション』から ~~~~~</p> <p>《ボランティアの発祥はキリスト教精神》・・・</p> <p>イラクの日本人質及び家族には、右に書くやうな自己犠牲の精神としてのボランティアは無い。彼等の受難（自己犠牲）は、自己欺瞞即ち「満たされぬ自己愛の他者愛的擦り替へ」であるが故、その自己犠牲はテロ集団に利用され、強いては日本の国益を侵し20億円の血税を私有化した。が自己愛ゆえに「蛙の面にシヨンベン」、彼等には罪の意識すら見られない。</p>	<p>passion の語源は passive 。</p> <p>「情熱」は「受動」。それに身を委ねるは悪しき事と言ふのが聖書の思想（「肉＝感情に従ふは罪。肉は神意を遂げる処」）。</p> <p>「情熱・肉」に相對するのが精神（能動的概念）。肉体の受難に対して精神はそれに打克つもの。</p> <p>イエスが「神の子」であるのは肉体の受難に打克つ精神を持つてゐた事。それによつて神と繋がつてゐた。</p> <p>「受難：passion」とはさうした能動的・積極的概念の象徴。</p>	<p>左記は『シェイクスピアの魅力』からの要旨。</p>
<p><u>平成十六年四月</u></p> <p>イラク戦争・自衛隊の派遣・集団的自衛権・憲法改正</p>	<p>全体主義・原理主義に対する、欧米の伝統であるアイデアリズム（理想主義）の挑戦。</p> <p>「過去百年西洋文化を摂取して来た私達（日本）の文化感覚によつてそれを採る」と恆存は言ふ。</p> <p>注：アイデアリズム（理想主義）とは、「神に型どれる人間の概念の探求」（近代西欧精神）</p>	<p>『アメリカを孤立させるな』</p> <p>『日米両国民に訴へる』『当用憲法論』『当HP「イラク人質問題」及び「イラク戦争」の問題について。参照』</p>
<p><u>平成十六年五月三日</u></p> <p>イラク人質（今井・郡山）の記者会見：「自己責任」解釈について。</p>	<p>「自己欺瞞」の問題</p> <p>記者会見で、今井も郡山も、NGO・ジャーナリストの「使命」（即ち対他的概念）と言ふべき所を、そこに「自</p>	<p>自己欺瞞・・・集団的自我的問題を個人的自我の問題に擦り換へやうとする日本人が持つ劣勢心理。</p> <p><u>詳しくはこちらを。</u></p>

	<p>己責任」と言ふ対自的概念の言葉を滑り込ませた。見事、自己欺瞞の田舎芝居を見せてくれたと言ふ訳だ。</p> <p>そこには、自己責任といふ「自己愛＝エゴ」との対自的葛藤に悩み、それを解決すると言ふ精神的作業が見へない。その行為を黙殺・逃避して他者愛・ヒューマニズムの美名の中に潜り込んで（自己欺瞞して）責任を回避し、ナルシズムに浸っているといふのが、あの二人の会見の実体だ。</p> <p>ヒューマニズムの中に嘘つたらしい自己愛が透けて見へる「臭い芝居」だ。</p> <p>ここに「戦後民主主義」の病膏盲の現象が見られる。</p> <p>その「自己欺瞞」の日本人的問題を徹底的に剔抉したのが、福田恆存であつた。</p>	<p>『一匹と九十九匹と』（当HP参照）</p> <p>『現代人の救ひといふこと』（当HP：『「近代」日本人の精神性』構図参照）</p> <p>『近代日本文学の系譜』（「私小説」に自己欺瞞の顕著なる傾向が見られる。と）</p> <p>恆存は、<b>約六十年も前に</b>その問題（日本人的特質）を取り上げてゐるのである。</p> <p>関連評論：『近代の宿命』etc</p>
続きは、「乞うご期待」		